

水稲のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策について

令和2年9月15日

加須農林振興センター

令和2年産の水稲では、一部の地域でスクミリンゴガイにより移植間もない水稲苗が食害を受け、欠株が目立つほ場が見られました。

令和元年秋の台風等により水稲収穫後の耕起が遅くなったうえ、今年は暖冬となり、越冬できた個体が多かったことや、4月の低温のため水稲苗の生育が遅れたこと等が多発の原因と考えられます。

発生の心配されるほ場では、適切な対策でスクミリンゴガイの生息密度を低下させ、被害を低減させましょう。

スクミリンゴガイとは？



スクミリンゴガイ(成貝)



スクミリンゴガイ(卵塊)

- 40年位前に南米から食用として持ち込まれ、その後野生化した淡水巻貝。
- 雑食性（主に柔らかい草等の植物を食べるが、魚の死骸等、動物質も食べる）。
- 水田に水が入ると、土中の貝が活動を始めるほか、用排水路から侵入する。
- 水温17℃以上（GW頃）になると食害を始め、水深4cm以上で活発に動き回る。
- 水稲苗の場合は、4葉期・田植後3週間位までの柔らかい苗を好む。
- 成長した貝は水面から8～10cm上の水上の植物や畦畔等にピンク色の卵を産み、2週間位で孵化、2か月位で成熟する。
- 水稲収穫時の落水に伴い、土中に潜ったり、排水路に移動して越冬する。-3℃で大半が死亡する。
- 1年間乾燥すると大半が死ぬが、被害をなくすためには、2年間程度の田畑転換が必要。
- 寿命は概ね2シーズン。

被害軽減のためには？（薬剤以外の防除対策）

○越冬させない！

- 水稲収穫後、耕うんし、貝を物理的に破碎したり、地表面に掘り起こして寒気にさらす。
※収穫後の土壌が硬い時期に、深度は浅くて良い（6cm位）ので、回転数を早くし、通常の1/2以下の作業速度で耕うんすると、最も効果的。複数回行うとさらに良い。
- 用排水路の泥上げを行い、寒気にさらす。

○水田に入れない！

- 取水口に5～10mmの網目のネットや網を設置する。

○増やさない！

- ・卵がピンク色の内に水中に落とす。
※卵には毒があり、貝には寄生虫が確認されているので、素手で触らず、ゴム手袋等を使用する。

○水稲の食害を防ぐ！

- ・田植後2～3週間、水稲苗が4葉以上になるまで水深4cm以下の浅水で管理する。
※湛水直播の場合は、播種後2～3週間落水する。

水田に侵入した場合には？（薬剤による防除対策）

- ・多発ほ場では田植と同時に有効薬剤を散布する。
- ・水稲移植時に1㎡に1.5～2頭の貝が確認される場合は被害が見込まれるので、薬剤による防除を行う。
- ・食毒剤散布前に食害防止剤を使用すると、食毒剤の効果が期待できないので注意する。

表 主な防除薬剤（令和2年8月31日現在）

薬剤名(成分名)	使用方法	使用時期	使用量/10a	使用回数	備考
スクミノン (メタアルデヒド)	散布	収穫60日前まで	1～4kg	2回以内	殺貝（食毒剤） 水の流出量が多いと残効期間は短くなる
スクミンベイト3 (燐酸第二鉄)	散布 無人ヘリコプターによる散布	発生時	2～4kg	—	殺貝＋食害防止（食毒剤） 有機JAS認定、特別栽培米で使用可
スクミハンター (チオシクラム)	湛水散布	収穫45日前まで	1～2kg	3回以内	食害防止 水の流出量が多くても薬剤本体が水田内に残存していれば効果は維持される
石灰窒素55 (石灰窒素)	※1	植代前	20～30kg	1回	殺貝
	※2	刈取後(水温15℃以上の時期)			

農薬使用の際は、ラベル表示を必ず確認し、飛散防止・農薬使用記録の記帳に努めましょう。

石灰窒素の使用方法

※1 植代前散布の場合

荒起し後3～4cmに湛水し、3～4日後全面に散布し、3～4日間4cm程度の湛水状態を保った後、植代を行う。田植後は薬剤散布後6～10日経過後（稲わら等がある場合は長めに）に行う。薬剤に窒素成分が含まれているため、水稲の施肥は控えめにする（石灰窒素20～30kg/10aは窒素成分4～6kg/10aに相当）。

※2 刈取後散布の場合

3～4cmに湛水し、1～4日後全面に散布し、3～4日間4cm程度の湛水状態を保つ。
15℃以下の低温では貝の活性が低く殺貝効果は期待できないため、できれば20℃以上の時期に実施する。（15℃以上の時期：～10/下、20℃以上の時期：～9/下）

○魚毒性があるため、散布後の田面水を水田から流出させないように落水、かけ流しは行わない。